



巡回指導つうしん

Vol.4

冬号

令和7年1月発行(公益財団法人児童育成協会 子ども相談支援部 巡回支援課 TEL:0570-550-819)

空気が乾燥し、様々な感染症が流行しやすい季節です。安心安全な保育のために、保育施設における適切な感染症対策を行いましょう。また、卒園を迎えるこどもがいる場合は小学校との連携を図りましょう。

Topics

巡回指導トピックス

今回は冬の活動や卒園に向けた取組について、巡回指導員が巡回先の保育施設で伺った事例や、保育施設に行なった助言例をご紹介します。



季節の行事に関する工夫(事例)

- ・2月には節分の食材(鰯など)を使用した給食を提供しています。

季節の行事について調理員とも連携して取り組んでいます。

外活動が難しい場合に体を動かす工夫(事例)

- ・積雪等によって外へ散歩に出られないときには、風船を使ったバレーボールのような遊びを室内で行い、体を動かす時間を作っています。

寒さのために長時間の外遊びが難しい日にも活用できそうです。

転園・卒園・就学を見据えた取組(助言例)

- ・転園先や就学先にこどもの様子を引き継ぐにあたっては「子どもの可能性を受け渡していく」という観点を大切にしましょう。引継ぎの際には保護者の同意を取ることが重要です。また、引継ぎ内容を職員会議等において事例形式で話し合いまとめることで、送り出す園の総意となります。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、例えば「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」では、お店屋さんごっこ看板やお金を作る際にこどもが『字を書きたい』と思った気持ちを活動に反映する等、遊びの中で取り組むことが大切です。

こどもの「やりたい」と思う気持ちを大切にしましょう♪

「保育所保育指針 第1章4(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」および「保育所保育指針 第2章2(2)ウ 環境」、「保育所保育指針解説 第2章4(2) 小学校との連携」も確認しましょう。

Information

保育インフォメーション

今回は企業主導型保育施設における感染症対策についてご紹介します。

企業主導型保育施設においては0・1・2歳児のみを対象とした施設や、限られたスペースでの保育を行っている施設が多いこと等から、巡回指導の際に感染予防に関するご相談を受けることもあります。

保育施設においては、感染症発生時の流行規模を最小限にすることを目標として対策を行いましょう。

感染予防の基本的な取組例

1. 感染源対策としては、発症している感染者(こども)を医務室等の別室で保育することや症状が軽減して一定の条件を満たすまで登園を控えてもらうことが重要です。
2. 感染症対策で最も重要となるのが予防接種です。



感染予防のための工夫例

1. 登園を再開する際、病状が回復し集団生活に支障がないという診断は、診察に当たった医師が行うものです。登園を再開する際の取扱いについては自治体の状況を把握した上で、入園時にあらかじめ保護者に周知しておく工夫も考えられます。
2. 予防接種のために仕事を休むことが難しい保護者に対しては、保育参観等の帰りに医療機関で予防接種を受ける方法を提案することも考えられます。

- * 5歳児については卒園までに麻疹風疹混合(MR)ワクチンの2回目の予防接種を受けることが望ましいことを周知しましょう。



【参考】「保育所における感染症対策ガイドライン(こども家庭庁)」

「保育所保育指針 第1章2 養護に関する基本的事項」も確認しましょう。